

令和4年度宮津市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和5年1月26日(木)午後2時00分～
- 2 場 所 宮津市福祉・教育総合プラザ(応接会議室)
- 3 出席委員 宮津市長 城崎雅文
宮津市教育委員会教育長 山本雅弘
宮津市教育員会教育長職務代理者 伊藤 正
宮津市教育委員会教育委員 田崎浩二
宮津市教育委員会教育委員 尾崎里花子
宮津市教育委員会教育委員 藤井陽子
- 4 事務局 大井教育次長 永濱学校教育課長 吉田社会教育課長
東文化財保護担当課長 大槻総括指導主事 梅林学校教育課参事
森本学校教育課参事 細見指導主事 公庄学校教育課学校教育係長
土井企画財政部長 早川企画課長 藤原企画課担当課長
- 5 開 会
- 6 議 題 ■宮津の新しい教育の創造に向けて
- 7 そ の 他
- 8 閉 会

(開会 午後2時00分)

大井教育次長

定刻になりましたので、ただいまから、令和4年度宮津市総合教育会議を開会します。

開会にあたり、城崎雅文宮津市長が御挨拶申し上げます。

城崎市長

皆さんこんにちは。市長の城崎です。本日は、御多用の中を御参集いただきまして誠にありがとうございます。教育委員会の皆さんには、山本教育長を先頭に、宮津市の教育行政の推進に日々御尽力いただいております。敬意を表しますとともに重ねて感謝を申し上げます。

総合教育会議の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

この総合教育会議は、市長である私と教育長、教育委員の皆さんとが一緒になって、宮津市の教育の基本理念である「豊かな学びを深めてふるさとを愛する人づくり」を進めていく上で大変重要な会議であります。

『第7次宮津市総合計画』の策定にあたっては、10年後に目指す将来像の実現に向けた5つのテーマ別戦略のひとつとして「ふるさとを大切に学びを深めるまちづくり」を掲げました。

新型コロナウイルスやウクライナ侵攻といった世界の混乱が物価高騰を引き起こすなど、予測困難な時代の教育をしっかりと進めていかなければなりません。長引くマスク生活は、子ども達に少なからず影響を与えていると考えられます。

とりわけ教育行政は、「地域社会にとって未来への希望、未来へ

の投資」であると思っております。明日の宮津を担い、創る人づくりに向けて、コロナ後の教育を見据えたうえで、宮津ならではの新しい教育の創造を進め、ふるさと宮津に誇りと愛着を持って活躍するまちづくりを進めていかなければならないと考えております。

本日の議論を踏まえ、「将来にわたって宮津を支える人財の育成」に御尽力を賜りますようお願いを申し上げ、開会にあたっての御挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

大井教育次長

市長ありがとうございます。

それでは議事に入らせていただきます。議事の進行については、市長にお願いします。

城崎市長

それでは議事に入ります。本日は、宮津市の教育の充実について、「明日の宮津を創り上げる人間性豊かな子どもの育成」と「豊かな心と体を育む文化芸術・スポーツの推進」の2つのテーマについて意見交換を進めていきたいと考えています。

まず、意見交換に入る前に、これまでの教育活動に係る共通認識を図っておきたいと思えます。令和3年度の実施事業に係る点検評価委員からの意見書の内容を確認しておきたいと思えますので、事務局から説明願います。

永濱学校教育課長

■（資料1）宮津市教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（令和3年度実施事業）から、現在の計画の基本方針それぞれに定めました目標値の進捗状況を一覧にしたものとそれぞれの分野の総括書を資料としてございます。ここでは、点検評価委員であります京都教育大学の竺沙教授から令和3年度に関する意見をいただいておりますので、意見書からポイントを絞って御説明申し上げます。

◆「第2期宮津市教育大綱・宮津市教育振興計画」が市の「第7次宮津市総合計画」の方針に基づき、2つの重点プロジェクトと密接にかかわるものとして、市全体の総合計画に位置付けられ、令和3年度は、明確なビジョンのもとで計画がスタートし、常に全体のビジョンを意識して取組を進めていること、また、教育委員会では議事とは別にその時々々の教育に関わる諸問題について活発な議論が行われていることについて評価をいただいています。

◆基本方針1「心豊かで生きがいのある人生を創造する学びの推進」について

「ふるさとみやづ学の構築」に向けて、高校生が「ふるさとづくり」や「地域づくり」について、市長との座談会などを通して提言を行うなど、市民参加でまちづくりを行うという意識を高める取組について高い評価をいただき、今後も、継続して高校生を巻き込んだ展開を期待するとされています。

また、「ふるさとみやづ学」は、小中一貫教育の中で系統立てて取組を進めており、小中学校で学んだことを、高校進学後や社会人になってからの活動にも活かしていくなど、小学生から高齢者

まで共に学ぶ機会を作っていくことが出来るのではないかと評価をいただいています。

◆基本方針2「明日の宮津を創り上げる人間性豊かな子どもの育成」について

府教委の研究指定を受けている「未来を拓く学校づくり推進事業」「学びの深化プロジェクト」「絆の作り手育成プログラム」の取組について、それぞれ評価をいただいています。

「学びの深化プロジェクト」では、ICTの活用そのものを目的とするのではなく、クリエイティブな授業づくりを目指し、新たな学びや授業を創造するという目標が明確にされ、子どもが対話により練り合う授業を展開するために、教員が学びを深める取組を実践している点を評価いただいています。

「絆の作り手育成プログラム」では、地域に目を向けることで、その実態や現状を知り、課題を見出し、その解決に向けた取組を考えることにより、地域社会と自分との関わりを意識し、生き方を考える機会になると評価いただいています。

◆基本方針4「豊かな歴史文化の継承・活用」について

宮津市の歴史・文化の継承や活用においては、市民、とりわけ子ども達に関心を持たれ、理解が深まるかということが重要であり、学校教育において、歴史や文化の財産を積極的に活用し、学校教育との連携を意識した取組を進めていくことを検討されたいとの意見をいただいています。

また、天橋立名勝100年・特別名勝70年という特別な年を迎えることもあり、その機運醸成について成果があったと評価いただいています。また、歴史や文化の財産をいかに将来の宮津市に活かしていくのか、子ども達や若者の参加を得て、幅広く考え、協議していくことを大切にしていきたいとのご意見をいただいています。

◆今後の課題について

計画や取組状況について、市民や保護者、学校の教職員などに分かりやすく発信することや、市民や保護者からの反応をしっかりと受け止め、意見交換する機会を設けること、また、市民などの関係者と交流を行うことが教育委員会制度の最も重要な理念であることから、大切にしていきたいとのご意見をいただいております。

以上、簡単ではございますが令和3年度の事務事業の点検評価から、説明とさせていただきます。

城崎市長

それでは、テーマの1つ目「明日の宮津を創り上げる人間性豊かな子どもの育成」に入りたいと思います。事務局から、このテーマに係る現在の取組状況の説明を簡潔にお願いします。

梅林学校教育課参事

◆（資料2-1）小中一貫教育と「ふるさとみやづ学」の推進について

宮津市では、就学前から中学校卒業までの10年間を見据えた教育課程を編成し、子どもたちが切れ目なく成長していけるように、就学前施設と小中学校のつながりある連携を推進しています。どこに行っても通用する質の高い学力の育成を目指した授業

改善や、どんなことにも主体的に粘り強く取り組む心の育成を目指した取り組みなど、保育園、幼稚園、小学校、中学校が一緒になって小中一貫教育を推進してきました。また、「ふるさとみやぶ学」においては、子どもの探求的な学びを重視し、学院で小1から中3までの系統性のある計画を立て、ふるさとのことについて、気づき、発見し、調べ、提言につながるような学びを深めました。

◆コミュニティ・スクールの推進について

学院、北部4小学校単位で「学校運営協議会」を設置し、地域と一体となって子どもたちをはぐくむ「地域とともにある学校づくり」を推進してきました。今年度の具体的な取り組みとして、いくつか挙げております。以前から実施していたものや学校運営協議会設置後に実施されるようになったものと様々ですが、どの取り組みもコミュニティ・スクールの目的に基づいたものです。その目的とは、子どもたちがこれからの時代をしっかりと生き抜いていくために、学校と地域が相互に連携・協働して、子どもたちの成長を支えていくことです。また、このような取り組みを継続して実施することが、学校づくり・地域づくりに繋がっていくと考えています。

コロナ禍で祭りができない中、吉津小学校の運動会での太刀振りの取組は、地域との交流や連携を一層深めた盛大な行事となったと、学校や地域の方からも聞いております。これからも知恵を出し合って、学校も地域も元気になれるような「地域とともにある学校づくり」を推進していきたいと思っております。

◆GIGA スクール構想の推進について

児童生徒1人1台端末・高速大容量の通信ネットワークの整備を行い、各教科やふるさとみやぶ学において、自分のペースで学んだり、友達と一緒に課題解決を図ったり、ICTも効果的に活用した学びを進めているところです。ICTを使うことが目的ではなく、ICTを普段使いする中で、友達とのコミュニケーションを大切に、主体的・対話的で深い学びにつながる学びの実現を目的としています。

今年度の具体的な取組としては、AIドリル等の活用による習熟度に応じた個別最適な学びやクラウドを活用した意見整理や資料づくりなどの協働的な学び、また、外国の子どもとリモートで交流するなどコミュニケーション能力の育成、実験データの記録や時間など目に見えないものの可視化、データの蓄積・整理、リモート工場見学など、活用を広げているところです。

森本学校教育課参事

◆（資料2-2）コミュニケーション教育の推進について

これからの時代は、知識基盤社会の時代であるとともに、社会構造のより一層のグローバル化が進み、多様な価値観、自分とは異なる文化や歴史をもつ人々とともに、正解のない課題、経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代だといわれています。このような時代を生きる子どもたちは、（自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々とともに思考し、協力協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながら社会に貢献することができる個人）、いわゆる積極的な「開かれた個」であることが求められていきます。

一方で、子どもたちの現状では、子どもたち同士、気の合う限られた集団の中でのみコミュニケーションをとる傾向があり、また、SNSなどインターネットを通じたコミュニケーションが子どもたちに普及していますが、対面でのコミュニケーションなどは稚拙さが目立ち、自然体験等、様々な体験の機会の減少により、他者との関係づくりに負の影響を及ぼしているといわれています。

このような中、国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力や、他者との人間関係を形成していく能力、協働して新たな価値を創造していくためのコミュニケーション能力など、多様なコミュニケーション能力は、いずれも、これからの時代を生きる子どもたちにとって基礎的な能力となっていくと考えています。

このコミュニケーション能力については、「いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことの無い問題について、対話をして情報共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ合意形成・課題解決する能力」ととらえております。

宮津市学力向上プランにおいても、「質の高い学力の充実・向上」を目指し、「基礎・基本の徹底」「論理的思考力や表現力の育成」「ICTを活用した学習意欲の喚起、個別最適な学びと協働的な学びの実現」の3点を目標としており、とりわけ、「論理的思考力や表現力の育成」は、身に付けた知識・技能をどのように使うかという視点から、論理的思考力や表現力の育成、認知能力と非認知能力の一体的な育成を進める上でもコミュニケーション能力は重要であると考えております。

今後、このコミュニケーション能力の育成を進めていくことで、対話を通して、子どもたちの他者認識、自己認識の力、伝える力の向上、自己肯定感と自信の醸成につながるとし、非認知能力の育成にもつながると考えます。また、指導者である教員にとっても、通常の授業手法や評価方法を見直し改善する機会となり、学級の雰囲気改善により学級経営や学年経営の円滑化につながり、それがゆくゆくは学力の向上にもつながっていくと考えております。

宮津の新しい教育の創造に向けて、新たに、このコミュニケーション教育を、各学校の教育課程上に位置付けて進めていきたいと考えております。

現在の「総合的な学習の時間」で扱い、教科横断的な学習として位置付け、具体的には、芸術家等の表現活動の専門家による演劇ワークショッププログラムに基づき、特定学年において、年間7～8時間で実施を考えております。

今後、令和4年度中には、モデル実践校として、宮津中学校で生徒向けにワークショップ型授業を行うことを始まりとし、令和5年度からは、宮津市コミュニケーション教育推進委員会を立ち上げ、小・中学校でそれぞれ1校ずつ、授業モデル実践校をつくり、計画的に授業を実施し、効果を検証しながら進めてまいりたいと考えております。

◆（資料 2-3）学校・学校施設等の在り方「提言」について

社会の在り方が劇的に変わる予測困難な時代が到来する中、これからの時代に求められる宮津市の学校・学校施設の在り方について、検討委員会で議論をしていただき、昨年 12 月に市長に提言をしていただきました。

提言の内容としましては、(1) 宮津市の目指すべき教育として、①多様性を認め合い自立心を高め合う豊かな学びの実現について、コミュニケーション能力を培い、非認知能力の育成・向上を図る学びを推進し、次の視点を大切にすること。

- ・学校・家庭・地域のつながり、人との関りを大切にする
- ・協働的な学びと教科横断的な探究活動を取入れる
- ・体験・経験を通じた学びを充実させ、ICT を活用した新たな学びの場を創出する
- ・学校・家庭・地域が協働で教育に取り組む仕組みづくりを推進し、地域の活性化につなげる
- ・教員や保育士が共に学び合える場を創出する

②生きる力の基礎を育む幼児教育・保育について、幼児期は学びの芽生えを育む重要な時期であり、今後さらなる子どもの減少が見込まれる中で、子育て支援策の一環として、例えば認定こども園化など、保護者の就労の有無に関わらず、教育と保育を一体的に提供できる施設の充実を検討すること。

③ふるさとみやづの魅力を活かした学びの推進として、「ふるさとみやづ学」の更なる充実をはかるとともに、宮津の豊かな地域資源を活用した体験型の学習を取入れ、五感を通じた学びを深めること。

また、(2) 望ましい教育環境の実現に向けては、小中学校・園においては、ある程度の規模が必要であり、極めて小規模の場合は統合を検討していくことが必要であること。その統廃合にあたっては、子ども達の学びを保障することを第一義として、関係者による検討を行い、現在の教育的課題に対応する新たな機能を付加した「新しい学校・園等」とすること。

以上の内容で提言をいただいております。この提言をもとに、今後は教育委員会で学校等の統廃合に向けた計画の策定を進めていくこととしております。

以上、簡単ではございますが、「明日の宮津を創り上げる人間性豊かな子どもの育成」に係る取組状況の説明とさせていただきます。

ただいま説明がありましたが、宮津市の新しい教育の創造として取り組んできた「小中一貫教育・ふるさとみやづ学」「コミュニティ・スクール」「GIGA スクール構想」などについて、成果や課題を含め、説明がありました。

また、今年度から取組が始まった「コミュニケーション教育の推進について」、さらに、学校・学校施設等の在り方「提言」について、これからの時代に求められる教育を進めるためには、どのような教育環境をつくっていくのか、説明がありました。

いかに質の高い学力の充実・向上につなげていくか、そして、いかに地域と一体となって、明日の宮津を担う人づくりを進めて

いくか、ということが大切なのではないかと思えます。

また、GIGA スクール構想の具体化で、子どもの学び方、先生の指導の仕方を問い直す必要があると言われるなかで、子どもの学びがどのように深まったのか、学びの質が高まったといえるのか、さらに非認知能力など数値で表すことのできない力をどのように評価し、より高めていけるのかを示していく段階に入ってきているように思えます。皆さんの御意見を賜りたいと思えます。

伊藤教育長職務代理

人づくり、教育は未来への投資だと思います。子どものことを第一に考えた教育大綱・教育振興計画が着実に推進されていると思えます。

「ふるさとみやぶ学」は、ふるさとを見つめ直す機会になっていますし、小学校からの系統だった学習を継続することによって、更に高校生や大人の学びにも繋がっていくところに特徴があると思えます。

「コミュニティ・スクール」では、地域の人材を活用し、学校をあげて取組を進めているところに特徴があります。学校からの発信を運営協議会の委員だけでなく、地域全体で受け止める体制ができてきたのではないかと思います。今後は、取組について市民に伝えていく方法や広報の在り方を検討していただきたいと思えます。

田崎委員

「小中一貫教育」は平成 28 年度から取組を開始して、完全導入して今年度で 3 年目です。成果が出てくるのは、まだこれからだとは思いますが、途中段階だとしても、小学校と中学校のつながりが強くなるなど良い成果が見え始めています。

「コミュニティ・スクール」は、昔は地域と学校との連携が当たり前でしたが、昨今の状況の中で、今一度子ども達を地域で育てていくツールになるのではないかと思います。

「GIGA スクール構想」の取組については、今の子ども達はタブレットを使うことが当たり前になっていて、自分たちの子どもの頃から考えるとすごいことだと感じます。コロナ禍で最先端の技術を当たり前に見える力が必要になったと思えます。

また、今は、多様性や LGBTQ など色々な新しい考え方が出てきていると感じますが、これまでの考え方もダメなわけではなく、それも一つの意見ではないかと思えます。今の風潮に馴染むことだけではなく、自分の思いや意見をしっかりと考えて言えることが大切だと思います。損得ではなく、善悪で考えられるようになってほしいと思えます。

尾崎委員

これまでの取組が積み上がってきていると感じます。地域に根付いている良さが今の子ども達にも積み上がっていると思えます。

タブレットの導入によって世界と繋がれるようになりましたし、情報もたくさん入るようになりました。これからは、情報に負けない心をどう作っていくかが問われると思えます。少子化により、同世代と育つ子どもが少なくなっています。人の気持ちを理解する心を育てることが大切です。ふるさとみやぶ学のように、全体で大きくなっていくような取組が大切だと思います。吉津小学校の太刀振りやグランドゴルフの取組は、子ども達が地域の方と色々な形で関わることができ良い取組だと思えました。人

と関わらないと心が育たないと思います。取組の一つ一つが良い成果が出ていると感じました。

藤井委員

教育ギャラリーの展示を見ましたが、どの学校も体験型の授業が増えて充実していると感じました。私たち大人もまだ知らないことがたくさんあります。先日、手話奉仕員の講座を受講する機会があり、初めて耳の聞こえない方のことを知りました。小さな時からそういう体験や触れ合いの機会をもつことはとても大切だと思いました。自分の力で幸せになれる人を目指して取組を進めていきたいと思っています。

山本教育長

平成 28 年度から取組を始めた「小中一貫教育」も思いが形になってきたと感じています。宮津小学校では、来年度に高校生と一緒に米作りに取り組む予定にしており、楽しみにしています。地元の方や高校生が関わることで色々な成果が期待できますし、結果的に地域づくりにも発展していくと思います。学校のために頑張ろうや、という方々が、次は地域のために頑張ろうや、何かしようや、となると思います。こうしたことは、子ども達の原体験として、ボランティア教育にもつながりますし、地域度といえますか、地域のクオリティの高まりにつながっていくと思います。子ども達にとっては、親や先生以外の第3の大人とつながることが、将来への糧になると思います。学校生活から社会生活への円滑な接続が昔以上に重要になってきています。コミュニティ・スクールの取組は、こうした接続にも発展していけるのではないかと思います。

GIGA スクール構想では、早期にネットワークやタブレットの整備を行っていただき感謝しております。京都府内でも宮津市は先進的な取組を行っています。こうした基盤を更に広めていきたいと思っています。

吉津小学校の太刀振りの取組は、他の地域にも広がりが出ています。地域の伝統や文化の継承につなげていきたいと思いますが、優先度をつけて取組む必要もあると思います。

前回の教育フォーラムで、「子どもの課題」は本当に子ども達の課題なのか、大人が作っている課題ではないのか、という指摘があり、はっとさせられました。「主体性を育む」ということも、子どもの側から見た時にどうなのか、子どもにとって本当に必要な力は何なのか、なんでも体験させれば良いというものではなく、一定の整理も必要だと感じています。

城崎市長

「コミュニティ・スクール」については、PR が少ないと感じています。広がり弱いように思います。市役所の広報セクションとも連携して、もっと市民に知っていただけるように取り組んでいきたいと思っています。

また、子ども達には多様性を認めるように、と言っていますが、私たち大人社会はそうになっていないと感じます。SNS は自分の知りたい情報しか入ってこないもので、考え方が偏ってしまっている人もいると感じます。こうした傾向はかなり影響があるのではないのでしょうか。社会教育も含めて、多様性の理解に向けた取組を進める必要があると思います。

いずれにしましても、取組の方向性としては、この方向で間違いないと思っておりますし、これからもより充実するよう進めて

いきたいと思います。

伊藤教育長職務代理

コミュニティ・スクールの取組で、栗田中学校のグラウンドの草刈を地域の方にさせていただきました。子ども達はこうしたことを通して感謝の気持ちを育てていくのではないかと思います。こうした取組が増えていくと良いと思います。

山本教育長

子ども達が自然に体感できるように考えていきたいと思います。成果はすぐには見えてきませんが、子どもの変化を伝えていくことが大切だと思います。公式の媒体だけではなく、日常的に子ども達の様子を伝えていくようなことが必要だと思います。

関係人口づくりとして、子ども達の心の中に「宮津」を育てていくこと、地域との関わりを原体験として持ってもらうこと、そのためにはどのような教育や施策をしていかななくてはいけないのか、十分に精査して取り組んでいく必要があると考えています。

「ふるさとみやづ学」＝「シビックプライドの育成」「地域創生」として取り組んでいきたいと思います。

城崎市長

「明日の宮津を創り上げる人間性豊かな子どもの育成」をテーマに皆さんからご意見をいただきました。

これからの時代に求められる学校は「教育する社会」から「学習する社会」へと変化し、すべての子どもの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現し、子どもの資質や能力を確実に育成していくことが求められています。

情報発信を強化し、目指す姿を保護者や地域と共有して、社会全体が子どもの成長に関わっていくことがまちづくりにもつながるものと考えます。

次に、「豊かな心と体を育む文化芸術・スポーツの推進」をテーマに意見交換を行いたいと思います。事務局から、このテーマに係る現在の進捗状況の説明を簡潔にお願いします。

藤原企画課担当課長

◆（資料3）第3期宮津市スポーツ推進計画の策定について

第2期宮津市スポーツ推進計画の計画期間が今年度末で満了するため、現在、宮津市スポーツ推進計画策定協議会において、第3期計画の策定に向けた協議を進めているところです。

第3期宮津市スポーツ推進計画（案）の概要についてご説明いたします。計画期間は、令和5年度から9年度の5年間とし、社会情勢や国の動向を踏まえ必要に応じて見直しを行うこととしております。

基本理念を「スポーツを通じた人とまちの元気づくり」とし、スポーツを通じて市民の心身ともの健康を高めるとともに、まちの活力を生み出すことを目指します。

基本目標として、「ライフステージに応じたスポーツの推進」、「多様なスポーツを支える環境の充実」、「まちに夢と元気を与える競技スポーツの振興」、「スポーツ交流によるまちの元気づくりの推進」の4点を定めています。特に、スポーツの力を地域コミュニティの活性化や健康長寿社会の実現など、個人レベルから社会レベルへの広がりにつなげていくこと、また、子どもや女性・働く世代や子育て世代のスポーツ機会の創出を図るとともに、指

導者の育成や競技人口の増加、幅広いニーズに答えられる組織環境の充実を推進したいと考えています。

以上、誠に簡単ではございますが、第3期宮津市スポーツ推進計画（案）の概要でございます。皆さまの忌憚のないご意見を頂戴できればと思いますので、よろしく願いいたします。

城崎市長

ただいま説明がありましたが、現在、令和5年度からの第3期スポーツ推進計画の策定を進めているところでございます。現在のコロナ禍において、国のスポーツ基本計画にある「する」「みる」「ささえる」などスポーツの魅力は多岐にわたるもので、スポーツの持つ「力」を活かしたまちづくりの視点は大切だと思っておりますが、少子化や部活動の地域移行など、この地域に適した子ども達が好きなスポーツを続けられる環境づくりも考えていかななくてはならないと点だと思っております。

こうした様々な角度から本市のスポーツ振興について、皆様のご意見をお願いしたいと思っております。

尾崎委員

運動をする環境が無くなってきていると感じます。アンケートでは、普段、全く運動をしていない人が36%ありました。3人に1人は運動をしていません。宮津全体で何ができるのか、チーム宮津で考えていけないと思っております。例えば、今日は運動する日、というような日があっても良いと思っております。93歳の母は畑仕事をしている時は頭もしっかりしていて、身体も丈夫です。最近では40代～50代の方でも転んで骨折したという話をよく聞きます。

また、身体だけではなく、心も一緒に育っていくように考える必要があると思っております。子どもの人数が少なくなると団体競技が減っていきませんが、心を育てるためには人と関わることが大切だと思っております。沢山の人の力のおかげで上達していくという感覚が大切です。スポーツを通して健康になる、まちも元気になる、そして、そういう大人たちが子どもを育てる、というまちにしていきたいと思っております。チーム宮津で何ができるのか、ということ強く感じています。

山本教育長

スポーツをしたいけれど、時間がない等でできない環境にある方も多いと思っております。どうすれば運動ができるのか、そのあたりは意見がありましたか。

藤原企画課担当課長

運動する時間がない、という意見は多数ありました。例えば、オンラインでもできるように、という意見もありました。

山本教育長

YouTubeやticktockで気軽に取り組めるようなものがあると、やってみようという方が増えるかもしれません。やってみたら楽しくて逆に時間が作れるのではないのでしょうか。ニーズとしてはかなりあるように思います。

伊藤教育長職務代理

きっかけ作りが大切ではないかと思っております。以前、いろいろなニュースポーツが出たときに、スポーツ推進員が地域の人に声かけをして参加を促したりもしましたが、何か魅力がないと運動をするきっかけが難しいと思っております。

以前は自治会でソフトボールのチームを組んでやっていたま

たが、今はほとんど無くなってしまいました。なぜ、こんなに減ったのか分析が必要だと思います。スポーツが嫌いになったのではないと思うのですが。

山本教育長

やはり、きっかけ作りが重要だと思います。スポーツをしていた人が、また再スタートするには、そのきっかけをどう作っていくのか。瞬間的でも良いので、人を集める仕掛けがいるのではないのでしょうか。

城崎市長

共働き世帯が一般的になり、ライフスタイルが変化したことも要因だと思います。何のためにスポーツをするのか、スポーツの良いところを見える化して伝えていくことも重要ではないのでしょうか。一度、止めてしまうと、何かきっかけがないと再開できないので、何かメリットを示すことが必要だと思います。

伊藤教育長職務代理

スポーツをすれば自分の健康に戻ってきますが、例えば、ウォーキングにしても、何か仕組みがないと取組が進まないと思います。待っていてもなかなか人は集まりません。

尾崎委員

企業のキャンペーンで自分の健康年齢を測る機会があり、実年齢と健康年齢とのギャップにショックを受ける方がたくさんいました。毎日、海藻を取りに行くというおばあちゃんは、血管年齢が40代でした。運動を生活習慣の一部とするようなきっかけが大切だと思います。

田崎委員

サッカーワールドカップは大変盛り上がりしましたが、自分ではスポーツをしないけれど見るのは好きな人がたくさんいると思います。昔は、宮津でも大きな大会が開かれて盛んでしたが、今は大会も減少し、機会がなくなりました。準備のいるスポーツは協会がないと試合自体ができません。夏休みの学生の合宿を誘致するなど大事ではないのでしょうか。

また、糸井嘉男選手が京都府の大使に就任したと報道がありました。こういうアイデアも良いと思います。

山本教育長

中学校部活動の地域移行の検討を進めています。子ども達が地域で経験することによって、地域の文化やスポーツの振興につながるように考えていきたいと思っています。子ども達にどうやってスポーツや文化活動の機会を作っていくのか、学校体育・文化活動が地域にどのように移行していくのか、考えていきたいと思っています。

伊藤教育長職務代理

SOMP0 ボールゲームフェスタは大変良い取組だと思いますが、できれば子ども達が本物に触れる機会を作っていただきたいと思っています。せっかく、一流の選手に来ていただきますので、一緒に運動をするのも良いのですが、できたら、一流のプレーを見せていただくとか、そういう経験を子ども達にさせてやりたいと思っています。

山本教育長

レスリングでは一流の選手が育っています。府立高校と連携して、ジュニアを育成するなど、市全体として、応援するような「支援+育成」の仕組みができると良いと思います。

藤井委員

先日、初めて福知山マラソンに参加しました。福知山市のまちを挙げての大イベントになっていて、走らない人もボランティアで参加するなど、一体感を感じました。今はスマートフォンが万歩計にもなりますので、宮津市でも市民を挙げてこうした機会を作れると良いと思いました。

城崎市長

本日は、大きく2つのテーマに基づき、皆さんと意見交換を行ってきました。

宮津市の教育の取組状況について、皆さんと共有し、様々なご意見を伺うことができました。この間、私たちが取り組んできた「宮津の新しい教育の創造」に向けた取組は、方向性としては間違っていないこと、成果が積み重なってきていることを強く実感しましたし、これからも、更なる取組を進めていきたいと考えています。

今後も、市長である私と教育長、教育委員の皆さんとが一緒になって、「豊かな学びを深めてふるさとを愛する人づくり」を進めていけるよう、この総合教育会議で議論を深めていければと考えております。明日の宮津を担い、創る人づくりに向けて、宮津ならではの新しい教育を進めることで、ふるさと宮津に誇りと愛着を持って活躍するまちづくりをしっかりと進めていきましょう。

以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了します。長時間にわたり、ありがとうございました。お疲れ様でした。

(閉会 午後4時30分)